

1「大蛮」<sup>だいばん</sup>。恐ろしい形相の大蛮に抱えられ泣き叫ぶ子ども／2「折敷」<sup>おりしき</sup>。お盆を使った一芸を披露するたびに観客は息をのんで見守った／3「豊穰の舞」<sup>ほうじょう</sup>。大国様とお稻荷様との絶妙な掛け合いが観客を引き込む／4「じゅうらせん」鬼の力強い舞が観客を圧倒した／5「剣の舞」華麗な手つきで剣を操る／6「じゅうらせん」勝ち取った鬼の面を掲げる女神／7「じゅうらせん」鬼と女神による壮絶な戦いを繰り広げられた／8「月日の舞」お盆を持ったまま前転の大技に成功すると観客からは盛大な拍手が／9「四天王の舞」『もう一杯』演技中に舞い手がお酒を求めるのも里神楽ならではの／10「四天王の舞」四方の神官と大蛮の知力と体力のぶつかり合い

## 月夜が照らす神々の競演

明星ヶ丘に響くお囃子の音。8月22日、「ひよし星降るキャンドルナイト」との共催事業として、明星ヶ丘施設の駐車場で「夏の夜に神々が集う鬼の里の夜神楽」が行われました。昨年初めて開催され、大好評を博した本イベント。今年は、当町の「富母里神楽」のほか、内子町の「立川神楽」、高知県梶原町の「津野山神楽」が参加し、それぞれに個性溢れる舞いを披露。里神楽ならではのユーモアが会場に笑顔を溢れさせました。ライトの光が舞い手の顔に影を差し、その角度によってさまじく変化し、その表情も醸し出されるなど、醸し出される観客を魅了する。世界へと引き込んでいきました。

**Interview** 各保存会の代表者にそれぞれの神楽の魅力、そしてこのイベントの意義について聞いた

文化が無くなることは、人がいなくなること

里神楽ならではの掛け合いが、観客を笑顔に…

1, 100年の歴史が織りなす「舞い」と「楽」の融合



富母里神楽保存会会長  
那須 史憲 さん

それぞれが伝承してきたものを披露し合うことは、とても意義のあることです。こうした伝統芸能は現在、高齢化などさまざまな問題を抱えています。決して廃れていってはいけません。この夜神楽は「伝承することの大切さ」それを実感できるイベントだと感じています。

富母里神楽は、形にとらわれず、舞う人も見る人も一緒に楽しめることを一番としています。神楽を、そしてこのイベントを続けていくにはさまざまな人の力が必要です。たくさんの力を借りて、今後も続けていきたいと思っています。



立川神楽保存会会長  
古野 清吉 さん

立川神楽の一番の見どころは、やはり里神楽独特の観客とのやりとりです。特に、今回の舞台でも披露させていただいた「四天王の舞」での、お客さんとのユーモア溢れる掛け合いは必見です。ぜひ鬼北町の皆さんにも一度見ていただきたいですね。

今回、このような貴重な場に招いていただき、とても光栄に思っています。自称「愛媛県一下手」な私たちですが、一生懸命練習を重ね、日頃は老人ホームで舞いを披露するなど積極的な活動を行っています。また、機会があれば、もう一度この舞台に立てることを楽しみにしています。



津野山神楽保存会副会長  
中越 計清 さん

他の団体がどのような舞いをするのか、こうして見ることができる機会は、どの団体にとっても大切なことだと思っています。

津野山神楽は、舞いと太鼓や笛などの楽との混然融合が魅力の一つです。舞い手の足とお囃子の太鼓が生み出す絶妙なリズムには、観客さえも思わず踊りたくなるほど、見るものを魅了する力があります。

1, 100年の歴史があるこの津野山神楽をぜひ一度見ていただき、その歴史に触れてください。そして、この舞いを見て、さらに他のイベントにも呼んでいただければ幸いです。